

よりぬき

[特集]  
製品図鑑

▶TEXT | 鈴木逸夫(日緋建装)

左官

左官道具で仕上げる多彩なテクスチャ

→115頁からの「ニュー～湿式」特集にGO!

住宅建築を中心に、湿式仕上げが流行しているが、なかでも左官壁に代表される、素材の質感を生かした仕上げが好まれているようだ。そこで、今回は左官道具ならではのテクスチャに注目し、そのバリエーションを使用する道具、仕上げ方のポイントとともに紹介する。

鏝仕上げが主流のテクスチャ

左官調仕上げの定番といえば櫛引き仕上げであるが、3、4年前まではよく見られていたものの、どうやらピークは過ぎたようだ。多くの物件に採用されることで汎用化し、差別化できなくなってきたことも影響しているのだろう。

そのため、櫛引き専用の新たなローラ

ー開発もやや頭打ちの状態にあり、竹ぼうきを用いるなど、道具を変えることでバリエーションをつけているのが現状といえる。定番的に使われているローラーも、その道具の形状からみても分かるように、テクスチャのバリエーションに限界がある。

一方、根強くテクスチャのバリエーションを広げているのが鏝仕上げである。基本は扇形状のテクスチャであるが、鏝使いを工夫したり、刷毛やスポンジを併せて用いることで、仕上げの自由度を高められるのが強みである。

不規則なランダム仕上げができる鏝は、アレンジすることで微妙なニュアンスが表現でき、使い勝手もよい。

実際、筆者もよく鏝仕上げを採用している。左官調仕上げが好まれる理由は、自然な感じや、手を加えることによる暖かみがあるからだだろう。鏝のランダム仕上げにおいても、安らぎをあたえるテクスチャが多いのではないだろうか。

コスト面については、鏝仕上げのなかでも厚みのある仕上げで、材料の消費量が多い櫛引き仕上げが高コストである。また、ほかの仕上げに比べて手間がかかる櫛引きは、1日あたりに施工できる面積も少ない。コストダウンと工期短縮を第一とするなら、スプレーガンを用いた仕上げがお勧めである。(文責:編集部)

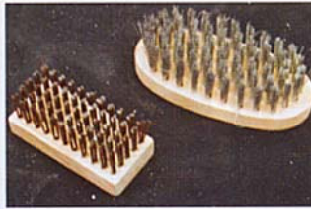
これで仕上げる！左官道具一覧



金鏝(角鏝)  
硬い鏝で主に主材を塗布する。白い材料にはステンレス製がよい



金鏝(土間鏝)  
腰が柔らかく、仕上げでテクスチャを押さえるのに適している



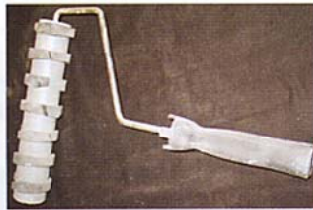
ワイヤーブラシ  
櫛目をつける。左官道具以外の、櫛の形状をしたものも使える



掃刷毛  
水を含ませて洗出しをする。水はスポンジローラーで吸い取る



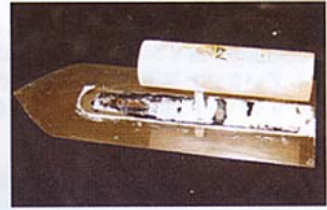
リシガン  
テクスチャごとに口径、圧力を守り、吹きムラがないようにする



リップル専用ローラー  
リップル(波型)テクスチャ専用のローラー。ゴムのテープが巻いてある



ウレタン鏝(右)、スタイロフォーム  
ウレタン鏝は裏に凹凸がある。骨材を転がしやすい



金鏝(剣先)  
主に主材を塗布する。剣先から搾り出すように動かす



竹ぼうき  
縦、横に動かしてテクスチャを付ける



クシ目鏝  
横方向に動かして櫛目を付ける。継目に気を付ける



プラスチック鏝  
面が大きく、力を均等に押し付けることができる



特殊スポンジ鏝  
横に引きずるようにパターン付ける